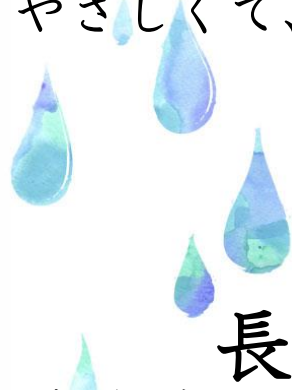


松竹 120 周年記念作品

やさしくて、悲しい。山田洋次監督初のファンタジー作品。



# 母と暮せば haha to kura seba

## 長崎関係者試写会のご案内

平素より大変お世話になっております。

終戦から70年。「父と暮せば」で広島を、未完となった「木の上の軍隊」で沖縄を舞台に描いてきた井上ひさしさんが、どうしても書きたいと強く考えていたのが、長崎を舞台にした物語でした。その思いに強い衝撃を受けて、監督はこの物語を作ることを決意しました。母親・伸子役には吉永小百合、息子の浩二役には二宮和也、そして浩二の恋人・町子役には黒木華という、理想的で実力あるキャスティングが実現。慎ましく生きる市井の人々を丹念に描いてきた山田監督が初のファンタジー作品に挑みます。しかしその根底にあるのは、山田作品で必ず描かれる人間の愛情ドラマです。これは、これからもずっと残るであろう、やさしくて悲しい物語なのです。

公開に先立ちまして、映画に携わった長崎の関係者の方に向け試写会を行います。是非ともこの機会にご高覧いただけますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。

**場所：TOHO シネマズ長崎 3 番スクリーン**

長崎市茂里町1-55 みらい長崎ココウォーク6階

**日時：11月19日(木)18:30 開場 / 19:00 開映**

(上映時間：約2時間10分)

【注意事項】事前に必ずご一読ください。

※開映後及び満員の際は入場をお断り致します。予めご了承下さい。

※ご来場の方は、本状をご持参ください。また、お名刺を頂戴する場合がございます。

※エンドロールが終了するまで必ずご鑑賞ください。

※知的財産権の保護の観点から、無許可の撮影・録音は固くお断り致します。

※関係者試写につき一般の方のご入場、及び本状を一般の方などへの譲渡する行為は固くお断り致します。

【物語】1948年8月9日。長崎で助産婦として暮らす伸子（吉永小百合）の前に、3年前に原爆で亡くなったはずの息子・浩二（二宮和也）がひょっこり現れる。「母さんは諦めが悪いから、なかなか出てこれなかったんだよ」。その日から、浩二は時々伸子の前に現れるようになる。二人はたくさんのお話をするが、一番の関心は医学生だった浩二の恋人・町子（黒木華）のことだった。「いつかあの子の幸せも考えなきゃね」。ふたりで過ごす時間は、特別なものだった。奇妙だったけれど、楽しかった。その幸せは永遠に続くようにみえた――。

吉永小百合 二宮和也

黒木華 浅野忠信 加藤健一

広岡由里子 本田望結 小林稔侍 辻萬長 橋爪功

監督：山田洋次

脚本：山田洋次・平松恵美子 音楽：坂本龍一 企画：井上麻矢

制作・配給：松竹 ©2015「母と暮せば」製作委員会



**2015年12月12日全国公開**

お問い合わせ先：松竹(株)九州営業所（藤田・鶴田・瓜生）TEL:092-281-1037